平成 28 年度第 2 回古賀市補助金審査委員会　議事録（要点筆記）

【会議の名称】　第 2 回古賀市補助金審査委員会
【日時・場所】　平成 28 年 6 月 3 日(金)　14 時 00 分～17 時 15 分
市役所第 1 庁舎第 2 委員会室
【主な議題】
１．開会
２．会議の公開について
３．委員長あいさつ
４．実績報告及び評価
（１）前回実施した評価結果の報告
（２）実績報告及び評価
① プレーパークの定期開催から常設に向けたプレーワーカーの育成事業　特定非営利活動法人古賀新宮子ども劇場
② 「東北記録映画三部作」上映～3.11語ること・きくこと　古賀子どもの本の交流会
③ 科楽しよう！サイエンスレンジャーによる科学教室　たけのこ文庫
④ 官兵衛ＫＫ（古賀市薦野）版「千里眼　薦野増時」宣伝事業　薦野の歴史をつなぐ会
⑤ 大型紙芝居巡回公演企画　古賀紙芝居サークル「カチカチ会」
⑥ ボランティアによる飼い主のいない猫の捕獲避妊去勢手術・啓発活動　わんにゃんフレンズ古賀
⑦ るんるん♪ごみ拾い　特定非営利活動法人エコけん
⑧ 生活者による地域密着・Ｗｅｂ連動型フリーペーパー発行事業　古賀すたいる
（３）評価結果取りまとめ
５．その他
６．閉会
【傍聴者数】　０名
【出席委員等の氏名】
委員：宗像優委員長、今村晃章委員、三上伸充委員、山﨑あづさ委員
事務局：星野孝一財政課長、内裕治財政係長、田中智実主任主事、大川宗春主任主事
担当課：青少年育成課　桐原誠課長　文化課　海老名由美図書館係長、
金子由美子文化振興係長、船津真理子業務主査
環境課　長﨑英明環境整備係長、吉澤祥子主任主事、矢野貴宏ごみ対策係長、
山鹿千鶴業務主査　経営企画課　北村俊明広報秘書係長
【庶務担当部署名】総務部　財政課　財政係
【委員に配布した資料の名称】

資料番号	名　称
１－２	実績報告書及び評価書類
２－２	実績評価票

【会議の内容】
○会議の公開について
（事務局）合議制の審査となるので、古賀市情報公開条例第 7 条第 4 号の公にすることにより、率直な意見の交換もしくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあるものと判断したことにより、非公開。

○実績報告及び評価
本日は平成 27 年度採択の 17 事業のうち 8 事業の評価を行う。

○前回実施した評価結果の報告
事務局より前回実施した 9 事業の評価結果を報告。

① プレーパークの定期開催から常設に向けたプレーワーカーの育成事業　特定非営利活動法人古賀新宮子ども劇場
補助申請額：437 千円　補助実績額：437 千円
【質疑応答】
（委員）子育て支援関係では、対価収入をとらないことが多く、特にプレーパークをやるところは、単純にお金を取ったら来なくなることもあり、特に多いという感じがしている。地方創生の影響もあり、さらに子育てに結構なお金を投入する傾向が出てきており、益々受益者がお金を払わないという状況が出てきそうな感じがする。今のうちに手を打っておかないと、単純に団体側が苦労するだけで、最初は実費からでもいいので、対価収入をとれるような企画にしていく必要があるのではないか。プレーパークは、民間でやっていて、それに対して補助が出ているのだろうとは思うが、結果的にいずれ独立してやらないといけないので、もう少しシビアに考えてもらいたい。全ての経費を対価収入でもらおうとするのは難しいという話であっても、試しでもいいので、企画をやってもらいたいと考えている。担当課としての意見を聞かせてほしい。
→（青少年育成課）受益者負担は、テーマとして考えていかなければならない。一方、放課後の子どもの居場所として、アンビシャス広場を各校区で確保するよう動いているが、放課後の時間帯に時間を割ける父兄が足りず、8 小学校区のうち 6 小学校区しか立ち上がっていないこともあり、プレーパークのプレーリーダーのような人材の確保が必要であると考えている。プレーパークについては、人材を育成するという側面と、受益者負担の 2 点の課題について、今後検討して、古賀の子どもたちのために役立つような評価ができるようになればよいと考えている。
→（委員）受益者負担のやり方を団体の中だけで考えるのは、限界があるので、担当課と一緒に考えるのもよいと思うが、市民活動センターや外部の団体に相談をするとよいのではないか。宗像、福津あたりはプレーパークも進んでいるので、ノウハウ等がある可能性もあるし、実費程度でもとるところから始めている団体の事例を集めるとか、あるいは、

ＮＰＯ的な発想からプレーパーク以外のところから資金調達する方法もあるかもしれない。ただし、資金調達の方法が補助金や助成金だけでは、長く続かないので、恒常的に取れるものを考えていく必要がある。
→（事務局）報告会では、子どもたちが参加するのにお金を取るというのは、全く考えてない様子であり、プレーパーク事業以外の部分での資金調達を検討されているという報告であった。
（委員）前回の評価でも、受益者負担をせめて保険料の実費程度だけでもとるよう、検討して欲しいと伝えていた。27 年度は時間の関係もあって導入できなかったかもしれないが、例えば、保険料を今回の延べ人数で単純に割ると一人当たり 40 円ぐらいで済む。子どもに負担をかけないとは言っても、せめて、まずはそこからっていうことは、既に議論させていただいたが、この点に関してどうか。
→（青少年育成課）そういったことも含め、今後検討させていただきたい。
→（委員）今後の検討というのは具体的にどういう形になるのか。
→（青少年育成課）行政と団体のみではなく、外部機関などとも連携しながら、自立の道を歩めるような受益者負担のメニューや方法を探ってみたい。
→（委員）しつこいようだが、参加費、せめて保険料 1 回、50 円ぐらいをとるということに関してはいかがか。
→（青少年育成課）参加費については、この事業をやるにあたり、団体のコンセプトがあると思うので、協議をさせていただきたい。
（委員）収支報告書の内容について、プレーワーカーの謝金が計上されているが、会員に充てられていないか。また、使用料については、団体の運営費にあたることはないかを確認したい。実績報告書では、スズメバチと大雪の影響で 2 回ほど中止したとあるが、プレーパークを実施している千鳥ヶ池公園の近くに児童センターがあるので、中止の場合に連携してそこで実施することはできないか。
→（青少年育成課）プレーワーカーについては、他の自治体などで既にプレーワークを行っている方に講師役で来ていただいて、活動のノウハウや子どもへの接し方などを指導いただく形で来ていただいているもので、組織の方ではない。施設の使用料については、事務局の会議等ではなく、プレーワーカーを招いて講習会を行ったものを費用計上している。児童センターとの関係については、現在のところは連携というところまでは至っていない。
→（委員）児童センターも子育て支援のための市の施設であり、雨天中止の場合の対応などうまく連携していただきたい。
→（青少年育成課）その点についても、団体と検討をさせていただきたい。
【委員のコメント】
（委員）ほかの事業と比べて自立度が極めて低いという感じではないと考えるが、仕組みづくりの視点は必要ではないか。古賀新宮だけではなく、伝統的に子ども劇場ではお子さんから参加料をとらないというのはあると思うが、お子さんの小遣いからとるという話で

なくともよいのではないか。まずは実費からでもちゃんととっていくという考え方は、結果的に、子どもにとっても重要な点ではないか。昔からの言葉でただより高いものはないというものがあり、ただで参加できて楽しかったからそれで終わるというのではなく、実は結構なお金が投入されており、何かをやるためにはそういうお金が必要だということを認識してもらうことも必要ではないか。

（委員）開催場所である千鳥ヶ池公園に古賀市全域から来るには、位置的な問題があるのではないか。公園近くの子ども達が来て遊んでいることが考えられるので、できる限り開催場所を広げられるとよいと思う。

（委員）最初に今から始めるところから始まって、毎月実施をして、やり方が確立してきており、補助金による成果が出ていると思う。今後、補助金がなくなった後でどうやって続けていくかという面において、特に小学生の子どもの外での遊び場所は、街中では少なく、とても貴重だと思うので、無理をして途中でできなくなるよりは、多少の負担を少しずつでも親に負担をしてもらって続けていくという方向のほうが利用者の立場としてもいいのはないか。子どもだけで出てきて、お金がないから入れないというのではなく、カンパ方式で払ってもらってはどうか。逆に無料だと気が引ける人もいるかもしれないし、ある程度払えるものの中で払う方もいると思うので、そういう人からの意見も聞きながら、とらないの一点張りではなく、もう少し柔軟に考えて、みんなでつくっていくような雰囲気にするとよいのではないか。

（委員）事業自体が非常に意義のあるものだと思っている。ただ参加費をとらないと、いつでも参加できる反面、逆にいつでも勝手にやめてしまうなど無責任な意識も出てきてしまうのではないのか。せめて実費で 50 円 100 円くらいでも構わないので、幾らかでも自分はお金を払って参加したとなれば、この取り組みに対して、保護者もまた子ども自身も愛着も湧くし、お金を払ったのだから頑張ろうという気持ちになるのではないか。

② 「東北記録映画三部作」上映～3.11語ること・きくこと　　古賀子どもの本の交流会

補助申請額：268 千円　　補助実績額：259 千円

【質疑応答】

（委員）参加者の目標を達成できなかったとあるが、要因の分析はされているのか。

→（文化課）参加者の目標が 200 人に対し、実績が 128 人で、ちょっと、人数が少なかった。小中学校を通してチラシを配布したり、全県下に発送したりということではあるが、区長を通じた行政区への働きかけなどが足りなかったのではないかと考えている。内容についても東北の地震というところで、地理的に距離が離れているため、自分のことではないような感覚、自分の痛みとして感じきれなかったところもあるのではないか。だんだんと人数が少なくなっていた経過もあり、上映の仕方等についても考えていく必要があったのではないか。

→（事務局）報告会の事例発表では、ほかの市の行事等と日程がかぶってしまったという

のが挙げられていた。
→（委員）思い通りにうまくいくことはあまりないので、うまくいかなかったこと自体はどうということはないが、その原因分析をしっかりするのが重要。原因の分析と分析した原因が適正かということも含めることが重要。厳しい言い方になるが、例えばほかの市の行事と重なっていたという話では、その行事に勝てるような要素はなかったという話になってしまう。また、行政区へのアプローチという話になったときに、全世帯にお知らせするには印刷費がかかるし、回覧版であれば 1 枚でよいが、回覧板の効力がどれほどなのかご存知だと思う。一方で、目標の 200 人は無理な設定がなかったかどうかも考えておく必要があるのではないか。映画はよかったというが、映画のよさが伝わるチラシになっていたかどうか。東北の話をそのままやるだけだと遠い話となってしまうので、東北の震災が風化してきている感じがあり、その重要性を伝えていくが大事だという打ち出し方の違いを出せるとよかったかもしれない。振り返りと原因分析をすることが、今回の事業のことだけでなく、結果的には、自分たちがこれからイベントをするときにつながると思う。
（委員）募集チラシは、具体的にどのように配布されたのか。また、参加者の内訳はどういったものか。
→（文化課）小中学校を通じて学校で配布をしたということで、小学校 8 校、中学校 3 校で全員配布をしていることと思う。全県下にチラシを発送した点は、どう配布したかはわからない。
→（事務局）報告会の資料では、事業成果として市内から 70 名、市外から 58 名の方が参加したとある。
→（委員）学校への参加要請は行ったのか。
→（文化課）来ていただけるよう、お願いしている。
（委員）参加者の年齢構成はどうであったか。
→（文化課）話を聞くところによると、話に興味のある方が、結構いたということと、子どもの参加もあったと聞いている。
（委員）今回の事業は 27 年度だけになるのか。
→（文化課）はい。
→（委員）今後の展開についてはどうするのか。映画や講師にお話しいただいた内容を一つの冊子にまとめて、パンフレットで配布をしたりして、形できちんと記録に残して今後に伝えていくといったことが想定されているのか。
→（文化課）今後の展開については、団体と話をしていないので、わからない。
→（委員）この点に関して、担当課の考えを聞きたい。市が平成 27 年度に事業を実施して、やりっぱなしにならないためにどういったことが考えられるか。
→（文化課）古賀子どもの交流会は、子どもの本だけに限らず、子どもが育っていく過程や成長を見守りながら未来へつなげていく活動をされているので、今回の事業についても、よい内容で価値があることなので、未来につなげていくような形で残せたらよいと思う。

【委員のコメント】
（委員）やりっぱなしにならないようにという、1 点に尽きると思う。どういう方向性にしていくのかの方針を知りたい。実際に地震もあり関心が高まっているところでもあるので、この事業を今後どう生かすか、具体的な方法を考えていただきたい。災害救援や防災の団体ではないにしろ、子どもたちにそういったものを伝えていくという過程の一環で方法を考えていただきたい。
（委員）団体は、子どもの読書活動の推進を図ることを目的としているが、今回の内容は、東北の震災の記録映画を上映したということで、結果的には災害に関しての話であったので、市民全体に伝わるよう総務課で災害に関係する事業の一環として考えてもらってもよいのではないか。
（委員）三部作ということで、それぞれ上映するだけではなく、語り部の講師を呼んで、年に 3 回実施したのは、大変だったと思う。三部作をこういう形でやりたいという、熱い思いですごく頑張って企画をされたのであろう。具体的なスケジュールを見ると、少しだけ興味のある人にとっては敷居が高く、時間設定や時間の長さが、逆に気軽に参加しにくくなった面がなかっただろうか。せっかくフィルムを借りるのであれば、公演と映画だけにこだわらず、1 回の映画上映を 2 公演にわけてやるなどの工夫ができたのではないか。今回のことを踏まえて、今後実施するときには、色々と参加しやすいような工夫をしてほしい。少しでもたくさんの人が来られるような形で実施して広めていただきたい。
（委員）企画については、非常によいものであったと思うし、内容に関しても、非常によかったと聞いている。だからこそ、やりっぱなしにしないためにも、講演の内容や映画を見た感想をまとめているのであれば、それらも含めた冊子をつくるとよいのではないか。その冊子を使って子ども達に伝えることができるよう、今回の事業を次年度以降もつなげられるような形にしていただきたい。

③　科楽しよう！サイエンスレンジャーによる科学教室　　たけのこ文庫
　補助申請額：57 千円　　補助実績額：57 千円
【質疑応答】
（委員）成果報告書の事業改善点において、講師との事前打合せを行ってはいたが、十分ではなかったとあるが、具体的にはどういうことがあったのか。講師との間で十分ではなかったという共通認識ができているのか。
→（文化課）都合よく実験がうまくいかなかった、失敗も多かったと書いてあるところから、思いどおりに実験が進まなかったところがあったのではないかと思う。
→（委員）実験の失敗が講師とのやりとりがうまくないことによるということか。打ち合わせがうまくいっていないという話であれが、そこはしっかりやったほうがよい。今後も講師を呼ぶこともあると思うので、うまくいかなかった責任が講師側にあるのか、団体側にあるのかというところは整理したほうが良い。今回の場合は、団体側の打ち合わせが十

分ではなかったという認識が強いという解釈でよいか。
→（文化課）そういうことだとは思うが、はっきりとはわからない。
（委員）収支報告書の補助対象経費の内訳欄で、内訳が羅列してあり、申請時との記載の方法が統一されていないようだが、団体では、区分ごとの把握はされているのか。
→（事務局）団体では、講師にかかるお金と原材料にかかるお金を別々に分けて把握はされてあると思う。報告書に記載するときに、詳細に書いていただいたという認識でよいかと思う。
→（委員）申請時と実績報告時において、経費の内訳が比較できるようにならないか。また、申請時とは違う経費の使い方をした場合は、流用の手続きをとっているのか。
→（事務局）報告書様式の件については、申請額に対して決算がどうであるかがわかるようなものにするよう、今後の制度の見直しの中で、諮っていきたい。流用されたかどうかの点については、申請時に挙がっている科目同士であれば、特別に届出は行っていない。ただし、申請時にない科目が挙がってくる場合には、その都度相談してもらっている。
【委員のコメント】
（委員）概ねしっかりとされているという印象だが、参加者の反応が主観的なものになっているように感じる。参加者に向けたアンケートなどを実施していただきたい。
（委員）今回の実験の内容は、小学校ではやらないということで、募集のチラシを作成して 24 名の小学生が体験したということだが、義務教育の中で、全体的に体験するほうがよい。個別に 24 名だけが体験するのではなく、全小学校を対象として、多くの小学生が参加できるよう、広がりについてもっと検討していただきたい
（委員）企画としては意義があるものだと思う。場所にも限界があったのかもしれないが、せっかくの機会なので、広く子どもたちが参加できるよう、今後実施するときには、工夫をお願いしたい。参加者が多くなれば、参加費収入もその分増えていくし、今後の自立にもつながると思う。講師任せになっていたのではないかと危惧する面もあるので、スタッフのほうでも、今回の件を振り返って、今後につなげていただきたい。
（委員）事業を行う際に参加費をとってやっている点はよかったと思うが、参加人数がどうやったらもう少し増えていくのかを考えて、この事業が次年度以降もつながっていけるよう工夫をしていただきたい。

④　官兵衛ＫＫ（古賀市薦野）版「千里眼　薦野増時」宣伝事業　　薦野の歴史をつなぐ会
補助申請額：239 千円　　補助実績額：239 千円
【質疑応答】
（委員）収支報告書にある消耗品費について、明細書の消耗品費の金額が違うがどちらが正しいのか。
→（事務局）後日確認させていただくが、本会議では転記ミスとご理解いただきたい。
（委員）参加人数が減っている点は、4 節のイベントが対象事業から外れたことが関係して

いると解釈してよいのか。
→（文化課）見込みのとおり。4 節のイベントは、講演会が予定されていたが、講演会の前にお寺でお経をあげたり、墓に行って供養祭のようなものをされたりしていたため、補助対象から外したという経緯がある。このイベントでの参加者は、54 名だった聞いている。また、第 1 回のホタルのイベントで、雨が降っていたため、参加人数が予定よりも少なかったことが考えられる。
→（委員）お寺でお経をあげるというのは、対象から外さないといけないルールになっているのか。一応、歴史上の人物の供養ということも含め、どう考えているのか。
→（事務局）基本的に、宗教活動に対しては、補助金は出しにくい状況がある。今回の分については、団体と担当課で話し合いができているという認識である。特に、財政的に完全に駄目だとは判断しづらいとことがあるため、今後とも、個々に団体と担当課で協議していただくのが適切なのではないかと思う。
→（委員）担当課も団体とそういう話をした結果、今回は補助対象から外したという解釈でよいか。
→（文化課）よい。団体との協議の結果、対象から外すこととなった。次年度にも供養祭のようなものをやりたいという意向はあるが、補助金対象から外し、日程をずらして開催されると聞いている。
→（委員）お寺や神社が出てくると同じ問題が出てくるが、見せ方を変えたり、午前中に供養祭をして午後からのイベントは補助対象事業にするなどのうまくやる方法もあるのではないかと思う。
【委員のコメント】
（委員）申請時の印象と違い、よいものになっていると思うが、自立してやっていくことを考えると、経費が増えている点が気になる。先行投資的なものであれば、あまり気にする必要はないが、自立するためには、寄附金が収入できなかったところは、もう少し工夫の余地があるのではないか。参加者については、イベントも結果的に天候に影響されたり、対象事業から外したりしたため、減っているとのことなので、おおむね順調だという感じがするので、これから色々な工夫を重ねていくことで、十分自立してやっていけると思う。心配なのは、薦野地区の人たちの盛り上がりがどの程度なのかという点である。
（委員）雨や対象事業から外した影響もあると思うが、26 年度と比べると区外からの参加者が多くない。申請時には駐車場代が計上されていたものの、使われていないようだが、薦野地区の地理的な条件からいくと、駐車場を確保して、区外からの参加者を呼び込む必要があるのではないか。
（委員）イベントにオリジナリティがあり、地域への愛着に溢れた、興味深い内容になっており、参加者もそれなりに確保できている。イベントとしては形になってきて、これからどう自立していくのかを考えていく時期かと思う。支出を見ると、スタッフジャンパー代とマップ印刷代が半分ぐらいを占めているが、臨時的な支出だと思うので、次年度は支

出を抑えることができるのではないか。あとは、収入を得る努力をしていくことが必要になってくるのではないか。
（委員）当初この事業は、一部の人に偏りがないのか、対象が歴史に興味のある高齢者だけに限られてしまうのではないかなどと思っていたが、今回の報告でも書面から、一生懸命に努力をされているような印象が伝わってきた。会員間の親睦が図れてみんなで楽しそうにやっている、地域の活性化をもたらすために一生懸命やっている、薦野城址がわからない人のために標識をつくるなど、手づくり感があり、みんなで知恵を出しながらやっている印象を受けた。ただ、自立に向けてどうするかということを色々と検討して、地域に根づいた活動を続けていっていただきたい。また、会員の拡大ということで、実際はなかなか難しいと思うが、まず、目標の 20 名を目指して頑張っていただきたい。

⑤　大型紙芝居巡回公演企画　　古賀紙芝居サークル「カチカチ会」
　補助申請額：40 千円　　補助実績額：40 千円
【質疑応答】
（委員）大道具や小道具が作製できなかった要因は何か。
→（文化課）当初、紙芝居をする際のバックの風景を板で作製するため原材料費で計上していたが、実際に作ろうとした際に、木製だと持ち運びが困難であることがわかり、プラスチックダンボールに切り替えて作製を試みたがうまくいかなかったと聞いている。
（委員）27 年度の公募型補助金で新たに製作した紙芝居で公演を行った人数と場所について、団体からの実績報告書と担当課の実績評価書に記載してある回数や人数が異なるのはなぜか。
→（文化課）実際には、実績評価書の数値が正しい。報告書に誤りがあり、何度か差し替えをした関係で、最終的に誤った数値となってしまっているようだ。訂正させていただきたい。
（委員）紙芝居を実施した場所を見ると、介護施設が多いような印象だが、紙芝居を見ていただくのは高齢者を対象にして活動しているという理解でよいのか。あるいは、基本的には一般の人を対象にしているが、結果的に、介護施設が多く、高齢者が対象になったということか。
→（文化課）団体が作っている紙芝居の内容としては、子ども向けのものから高齢者向けのものまで、幅広く見ていただけるものを工夫して作られている。今回、公募型補助金をいただくことなり、電話や出向いてＰＲを行った結果、介護施設からの依頼が多かったと聞いている。
→（委員）活動実績を見ると、実施対象ごとに何回目であるのかが書いてあり、しっかり資料がつくられてある。新規開拓もあるし、リピーターという形でやっているところもあり、幅広く活動されている印象を受けた。
（委員）38 回上演されているが、団体の評価としては多いのか少ないのか。

→（文化課）団体としては、意欲もあり、より多く開催したいとのことだが、会員は多忙で、時間調整をしてやりくりしながら実施しているようだ。今後は、会員数が増えていけば、当然回数も増やしたいという思いがあるのではないか。
（委員）収入に関して、今回の報告書には記載されていないが、収入はないのか。
→（文化課）今回、収支報告しているのは、公募型補助金の対象とした 2 作品の上演に関するものであり、それ以外の上演分で、5 万 4000 円ほどの収入がある。
→（委員）その収入は助成金のようなものか。それとも広告料収入のようなものか。
→（文化課）上演先からの謝礼として受け取られているようだ。
→（委員）1 回あたり幾らぐらいになるのか。
→（文化課）団体側では、特に幾らかというのは決めておらず、上演先の高齢者施設のほうで決められた金額を受け取っていると聞いている。
→（委員）基本的にはボランティアでやるものの、結果として、施設のほうがお礼を自発的に出されているのか、あるいは上演する際に、1 回当たり幾らかを取り決めた上で実施されているのか。
→（文化課）取り決めをされているかは把握していないが、以前は、全く謝礼を受け取っていなかったものの、施設側からの強い要請もあり、受け取るに方向になってきているようだ。事業収入として謝礼を受け取ることの是非について、会員内でも温度差があり、協議されているようだ。
【委員のコメント】
（委員）団体の運営に関して、構成員の人数と出動回数がアンバランスになっている印象を受ける。団体の自立を考えれば、上演実績の回数が多い印象であるし、謝礼をとりたくないのは理解できるが、謝金収入が少ないのではないか。もう少し活動のペースややりかたを調整しつつ、団体の基盤づくりに力を入れ、計画的にやることに時間を割かなければ、事業の継続の面が心配である。要請に全部応えていくのには無理があると思うので、上演回数を自分たちでコントロールしながらでも、団体の基盤をつくるほうとか大道具、小道具もしっかりつくるほうに力を注ぐような形にして、継続して実施できるようなやり方としていかなければいけない。補助金をもらっている間にやり過ぎてしまうと継続がきつくなる感じがするので、複数回やったところは、上演を見合わせることも考えてよいのではないか。
（委員）定例会やその他の活動、紙芝居の上演を全て数えると、全部で 70 回ぐらいやっており、多忙であると思う。今後も高齢者が増えていくので、紙芝居の人気も上がるのではないかと思うので、会員の増を図って組織を強化していただきたい。資金調達の関係では、その他の先進団体の情報を手に入れるなどして、報酬等に関する取り決めを行なった上で資金力を増して、これからも頑張っていっていただきたい。
（委員）非常に精力的に活動をされていると思う。団体全体の収支は、会費と複数の補助金と謝礼金で賄っているようで、練習会場代もその中から出しているようだ。ただ、報告

を見ると交通費等も入っていないので、参加している方が、交通費も手出しでやっているのだろうということを考えると、ボランティアとはいえ会員を増やすことを考えるとそういった実費については、収入を確保するようにして、長く続けて行けるようにしていくとよいのではないか。

（委員）高齢者や子どもを対象にして紙芝居を見てもらい、楽しんでもらうと同時に、その内容が、古賀市の民話などをもとにして自分達で物語をつくって知らせるということも非常にいい取り組みだと思う。ただやはり、自立に向けての収入をどうするかという点において、結果的に幾らになったということではなく、例えば、1回あたりの料金を決めてしまって、上演すれば収入の見込みも立つので、活動がやりやすくなるのではないか。以前にも提案したが、ネーミングライツのようなものや紙芝居のふちに広告を入れるような仕組みも取り入れるとよいのではないか。

⑥　ボランティアによる飼い主のいない猫の捕獲避妊去勢手術・啓発活動　　わんにゃんフレンズ古賀

補助申請額：380 千円　　補助実績額：380 千円

【質疑応答】

（委員）成果報告書に市議会に請願書提出予定とあるが、どういうものであるのか。もともと提出予定であったのか、それとも補助事業をやってきた中で提出する必要がでてきたものなのかというとこも含めて内容をお尋ねしたい。

→（環境課）請願については、6月の定例会で提出する予定であると聞いている。福岡県では、地域ぐるみで一緒に活動していく地域猫活動というものが進んでおり、この活動をできるだけ進めていく上で、公募型補助金と県の地域猫活動との両方活動していく中で、地域猫活動に重点を置きたいということで聞いている。

（委員）担当課において、当初は、どちらかというと後ろ向きな感じであるとの印象を受けていたが、徐々に評価が高くなってきていることに関して、どういう変化が起こっているのか。

→（環境課）事業を進めていく中で、ボランティアに任せきりになるのではなく、きちんと連携をして、情報共有しながら、どういうふうに進んでいこうかというところについても一緒に考えていくような関係になっている。環境課だけで対応できないようなケースも、一緒に対応していただいたり、団体のほうに直接市民からの連絡が入るぐらい、知名度も広まり、ボランティアしか知らない情報を環境課とも共有できていたり、今後どう進めていったらよいかを提案していただいたりできるような関係になっている。

→（委員）行政と団体とが課題から共有するという、本当の共働ができている。意識しているかどうか別としてちゃんとやれていると思う。

（委員）収支報告を見ると申請時に比べ、倍近くの支出となっている。

→（事務局）指摘のとおり、申請時に比べ支出が多くなっているものの、収入もあわせて増えているので、予定以上の活動を行うことができたとういうことであろう。

（委員）この事業は、手術に加え、啓発というのが実施内容になっているが、具体的にはどういった内容の啓発ができたのか。
→（環境課）飼い主のいない猫に関して、避妊去勢手術を行うことを地域を回って訴えており、また、手術後の猫を元々生活していた場所に戻して、地域の方たちで見守っていただくよう啓発を行っている。また、市民全体への啓発については、団体だけでは難しいので、環境課と連携して啓発の方法を検討して、昨年度はホームページで掲載を行い、今年度は、広報誌で、団体と一緒に内容を考えながら啓発の記事を記載しようとしている。
→（事務局）団体の報告会での内容では、4 月の広報こがに掲載されているし、えさやりをされている方のところに行くときには、独自のチラシを配るなどの啓発活動をされているようだ。
（委員）将来の財源の関係はわからないが、新聞からの情報で、国も殺処分をなくすための行動計画があり、県では、地域猫活動という支援を明記されている状況だが、一般的に事業を各市町村が行うようになれば、地方交付税の算入が考えられるのではないか。
→（事務局）基本的に普通地方交付税では措置されない経費である。ただし、特別交付税については、市が独自に取り組んでいる施策を申請することで、算入される可能性もあるが、金額もそれほど大きくないので、力を入れているとは言い切れない状況であるので、今後広がっていった場合には、検討すべき課題であると考えている。
（委員）団体全体の収支状況や財産状況がわかれば教えてほしい。また、補助事業の影響もあり、申請のときよりも団体の収支の規模が大きくなってきているようなので、法人化の話がでてはいないか。
→（環境課）今のところ法人化の話は聞いていない。実際に会員も増えてはいるが、限られた地域や時間でしか活動できない場合もあり、年齢も若い方が多いが、しっかりと活動できる方も少ない状況である。この団体以外にも地域猫活動をする団体があり、連携をとりながら活動をされている。
【委員のコメント】
（委員）行政と団体がよい関係を築けているので、補助事業が終了した後の取り組みについて、財政面では、自分たちの力で資金調達ができていくのであろうが、国や県の流れが追い風になっていることもある中で、具体的に事業を進めていくために古賀市との連携は必要になってくると思うので、どのようにしていくのかをお互いに考えておいていただきたい。手術する頭数が増えていることから、ボランティアで事業を進めていく中で、無理がないのかが重要なポイントになるので、担当課でも気をつけておいていただきたい。寄付金を安定してとれている点は、評価できるが、任意団体で寄付金額が一定の金額を超えると課税されるという話があり、活動を継続していく場合に、寄付金が継続的な財源になる可能性もあるので、法人化を検討してもよいのではないか。
（委員）ほかの事業と違い、事業を取りやめた場合に、野良猫が増えていくような状況を想像すると、後戻りができないように思う。国や県もこの事業を推進している状況がある

ので、環境課と協力して推進していただきたい。
（委員）補助金の意義や成果があらわれたものだと思う。ただ単にお金を出すということではなく、それを超えた行政との連携で市民に広めていくということをしているので、この 3 年間で築いたものを今後どう生かしていくのかという点で、この補助金の成果を示すものになるので、今後どうしていくのかを団体と行政とこれまでの連携を生かして考えていってもらいたい。今猫ブームなので、地域猫やＴＮＲの話もマスコミでも最近すごく取り上げられてきており、全国で取り組みが進んでいるようだ。古賀市では、任意の団体が活動しているものをどう今後につなげていくのかを考えてもらいたいし、期待をしているところである。
（委員）熱意もあるし、市との共働がうまくいって、寄付金も増えており、非常によい取り組みだと思う。ただ、補助終了後、自立に向けてどうするのかという点で、支出では手術費用がかなりの部分を占めるので、支出を減らすために手術を減らすということは、できないであろうし、一生懸命やればやるほど経費がかかってしまい、なかなか難しいとは思うが、担当課と話しながら、いい意味でお互いに見守ったりアドバイスしながら、共働関係で事業を続けていただきたい。

⑦　るんるん♪ごみ拾い　　特定非営利活動法人エコけん
　　補助申請額：52 千円　　補助実績額：52 千円
【質疑応答】
（委員）ポイ捨てはよく見かけるのだが、環境課としては、今後どのように対処しようとしているのか。
→（環境課）大きなごみに関しては、不法投棄の監視の強化などをやっているが、吸殻などの小さなポイ捨てに関しては、今回の事業のように小さいお子様を含めた、親子での活動を通して啓発するなどのほかには具体的な施策を打てていない。
→（委員）監視カメラをつけるなどの具体的な対処はできないか。
→（環境課）監視カメラ等による監視までは実施していない。ポイ捨てなどがある程度の量になれば、夜間の監視パトロールなどをやっている状況である。
（委員）この事業は、まつり古賀会場内でのごみ拾いであり、まつり古賀の際に誰かが捨てたごみを拾うというイベントである。そもそも、まつり古賀の最中に、ポイ捨てをしないようにする取り組みはされていないのか。
→（事務局）一般的な行事なので、モラルに任せてある。環境課もしくはまつりの主管課である商工政策課で張り紙などをしていることはなかったと記憶している。適宜ごみ箱は準備しており、そこに捨ててもらった形だと思う。
→（委員）いやらしい言い方になるが、この活動が継続するためには、常にまつり古賀の会場にごみが捨てられている状況でないといけないということになる。ごみがなくなり、この活動自体がなくなるのが将来的な理想になると思うが、会場にごみがなくなるような

活動については、どのように考えているのか。
→（環境課）将来的に会場内でごみがなくなればというのは、団体でもそう願っていると思う。ただ、現在の段階においては、家庭用のごみ袋でいっぱいごみが出ている状況なので、家族で簡単に取り組めて、環境に意識を持っていただきたいとの思いで実施されている。
【委員のコメント】
（委員）ごみ拾いという環境活動に参加してもらうところが、重要な取り組みであるという話だったが、団体からまつりの主催者に、そもそもごみがでないような取り組みになるよう、働きかけることも必要なのではないか。自分たちの活動だけではなく、古賀市の環境活動をどう考えていくのかの視点を持って臨んでいただきたい。
（委員）ごみのポイ捨てに対しては、全てをなくす解決策がない状況があるので、こういうゲーム性を持たせたごみ拾いの体験をしてもらって、ポイ捨てが実際に見られたときに、拾ってもらえるようになることが大事ではないかと思う。若者を中心に町中のごみを拾う活動が各地で広がっているということが新聞に載っていたが、そうした活動へのきっかけづくりになるような、広がりのある活動になるようにしていただきたい。
（委員）前年度の評価結果と同様、今回の報告を見てもただのゴミ拾いイベントだとの感想である。アンケートはとってはあるが、内容を見ても、楽しくごみ拾いしたという感じで終わっており、このイベントがその後のボランティア活動やエコ活動につなげるどういう取り組みなのかが全く今見えてこない。イベントとしてやることに関しては、問題ないとは思うが、楽しかっただけで終わってしまっては、もったいない。ごみ拾いが楽しかったことがごみを減らそうというのにどうつながるのか疑問であり、啓蒙活動の機会等になるようにすべきではないか。
（委員）リピーターが結構いるということもあり、これをさらに引きつけるために、例えば、拾ったごみの内容を分析して、どのようなごみが多かったかの結果を翌年のまつり古賀で掲示すれば、初めてきた人にとっても、ごみ拾いをしていない人への啓発効果にもなるのではないか。それを見て、自分の拾ってみようと新規に参加する方も増えるかもしれないし、去年自分が拾った結果が表になっていたら、頑張ってよかった、もう少し頑張ろうかというふうにもつながると思う。今後は、参加しやすいボランティア情報を一緒に配布するといった改善目標もあるが、さらに踏み込んで工夫をしていくことで、ごみ拾いをした成果や目に見える啓発になるのではないか。ポイ捨てがなくならない状況の中で、体験型のごみ拾いは環境教育の一環としても非常によいことだと思うが、そもそもごみを捨てないよう徹底的に啓発活動するなどの視点も持ち合わせるとよいのではないか。

⑧　生活者による地域密着・Ｗｅｂ連動型フリーペーパー発行事業　　古賀すたいる
　　補助申請額：130 千円　　補助実績額：130 千円
【質疑応答】

（委員）この事業の担当部署が経営企画課広報秘書係となっているのは、どうしてか。
→（事務局）事業の内容が、当初はフリーペーパー発行という形であり、市民への広報が主体になっていたことから、広報を担当している経営企画課が担当部署となっている。事業を行う中で、選挙や国勢調査のことが後からついてきたものと御理解いただきたい。
（委員）クオリティが今一つだとの自己評価が出ているが、広報誌のクオリティに関しての担当課の評価はいかがか。
→（経営企画課）広報秘書係としての評価については、よく言えば、手づくり感があって非常によいというところもあるが、デザイン性や見やすさの面においては、団体が目指すところに至っていないということではないか。担当課としても、手づくり感があるものから、もう一歩踏み込んだデザインになれば、もっと市民から手にとってもらえるものになるのではないか。フリーペーパーも色々なところから出されているが、デザイン性をあげるというのは、手にとってもらうためには大事ではないかと思う。
（委員）古賀市の世帯数が 2 万 4000 ぐらいある中で、飲食店や公共施設などに 4000 部を配布したとあり、一部の人にしか行き渡っていない感じがするが、配布場所には、基準を設けてあったのか。
→（経営企画課）市の広報紙を配布しているところや、協賛してもらった店舗を中心に配布されている。駅などの手にとってもらえるところ置くなど、配布の仕方の研究の余地はあると思う。今後は、団体とも打合せしながら、できるだけ効果的な配布方法を探りたい。
（委員）支出に関して、取材・研修活動としての旅費及び消耗品費の具体的な内容を教えてほしい。
→（経営企画課）旅費の内訳としては、福岡市内での研修に参加するための、電車や地下鉄代となっている。消耗品については、デザインの勉強のための書籍などの教材的な書籍の購入に充てられている。
→（委員）収支報告書の記載の仕方が、団体によって大きく異なっており、明細が添付されてあったりなかったりしているのは、どういうことか。
→（事務局）担当課において、領収証を確認するなどしているため、制度的には、収支報告書の書式を使っていれば、特に問題はないと考えている。事務局としては、収支報告書には科目ごとに集計して記載し、明細について、別紙を添付していただくのがベストであると考える。様式についても、今度の制度見直しの中で検討させていただきたい。
【委員のコメント】
（委員）自立の方向を目指していくためには、結果的に、発行回数を減らすなどのやり方もあるが、定期的に 4 回出すことを目指しているのであれば、工夫が必要で、クオリティも少しずつ上げていくしかない。企画の内容で勝負しているという点において、行政の選挙などの施策と合わせるなど、非営利型のフリーペーパーとしては、新たな取り組みであると思う。行政が何をしようとしているのか、どんなことを目指そうとしているのかについて、担当する経営企画課では情報が入ってき易いと思うので、補助事業終了後も情報交

換をしながらやっていく関係ができるとよいと思う。
（委員）色々な情報誌はあるが、選挙割やスマート国勢調査等については、先進的で斬新である。市役所との連携を強めながら、より多くの人に行き渡るよう 4,000 部の配布先の検討をお願いしたい。
（委員）フリーペーパーではあるが、単に記事を書いて配るということに留まらず、色々とアイデアを出して独自の取り組みをしているところが評価できる。今後、定期的に発行していく中で、さらにどう進めていくのが、楽しみでもあるし、そこを頑張っていただきたい。周知されていけば広告収入も増えていくのかもしれないが、収入面においても何か考えていかないといけないのではないか。
（委員）フリーペーパーで注目を集めたり、色々な企画を考えて活動していることも非常によかったと思う。ただ、事業の性質上難しいとは思うが、効果に関して、どうやって量的に図るのかを常に考えていただきたい。何部配ったかはわかるが何人が読んでくれたかや、選挙割りによって、どのぐらい投票率が上がったかなど、この事業を行った効果を量的に図るということをどうやったらできるのかということを常に意識しておいていただきたい。また、報告書には「多くの来場者が来ていただいた」や「新たな仲間が増えた」と記載してあるが、具体的な人数がわからない。新聞やマスコミに取り上げられたというのであれば、1 年間を通じて何回メディアに取り上げてもらったかなどは数字として表すことができると思う。常に効果を数字で計るためにはどうすればいいのかを意識して、できることに関しては、ただ言葉だけではなくきちんと示す姿勢を持っていただきたい。

〇評価結果取りまとめ
（委員）概ねどの委員も評点のバラつきはないようだ。評点の開きがある事業についても、理由が理解できたので、特に問題ないと考える。
（委員）評価が高い事業については、取り組みの内容を広げていくためにも、公表してもよいのではないか。申請から評価までの流れが興味深いところもあり、補助事業をどのようにやったかという点の説明、報告は団体が行うのであろうが、評価については当該団体にしか伝わらないこともあり、それを広く市民に伝えることも必要ではないか。また、事務局では、全ての評価を把握しているので、団体同士がうまくつながることができるよう、コーディネートすることも検討していただきたい。
（委員）評価が極端に低い事業の扱いについて、今後考えないといけないのではないか。また、補助事業を評価する仕組みを持たない市町村がある中で、古賀市では、評価を実施しているので、補助金の評価を評点についても、公表するようにしたほうが、励みになったり、反省を促したりすることができるのではないか。
（委員）補助金申請の際には、委員会の評点による合否基準があるが、評価結果においては、そういった仕組みがない。今後制度の見直しを行う際には、この点についても検討したほうがよい。

（事務局）その点については、事務局側でも認識しており、団体、担当課及び委員会の評価の統一した基準を持たせることができれば、各々の評点のギャップを議論することもできるのではないかと考えている。評価の段階における合否基準なども今後の見直しの中で、検討させていただきたい。

○その他

（事務局）今後のスケジュールについて、7 月から 8 月頃に継続事業の審査を行い、年末にかけて制度の見直しに係る審議を 3 回程度行いたいと考えている。

（事務局）今回で平成 27 年度に実施された 17 事業の評価を終えた。当委員会では、平成 25 年度以降、これまでに制度確立から審査、評価まで行っていただいたが、6 月 9 日で任期の 3 年間が経過する。そもそも補助金というのは、地方自治法では、公益性について、市役所で決めるのではなく、第三者の目で判断しなければならないこととなっている。評価の高い事業については、市の直営で委託するよう検討したり、低い事業については、廃止という判断も必要となってくる。今の制度ではそうなってはいないが、28 年度での見直しを皆さんにお願いしたいと考えている。色々な職業の視点からこれまでにコメントいただく中で、職員も新たな視点をいただいくことができ、感謝している。今後とも引き続きよろしくお願いしたい。

以上